

## 第3章 アンケート調査結果

---

## 1 アンケート調査結果の見方

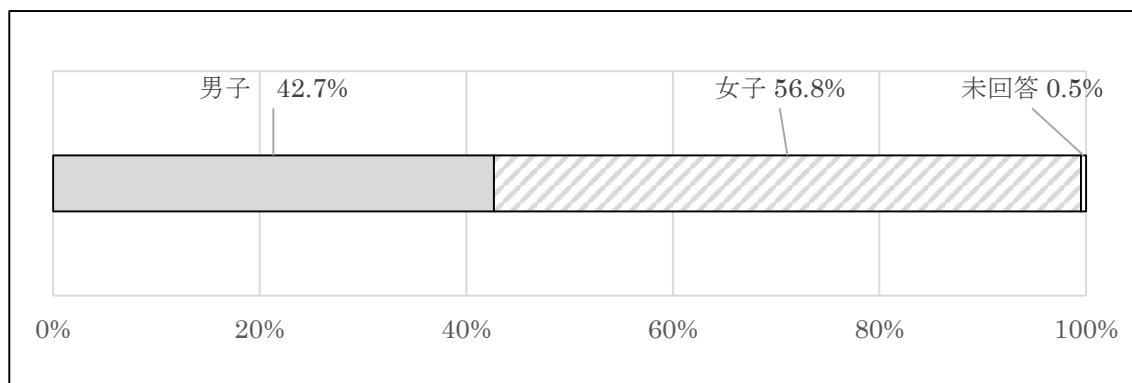
- (1) 調査結果の数値は、回答率（%：パーセント）で表示しています。  
%の母数は、その質問事項に該当する回答数の総数であり、その値はnで示しています。
- (2) 小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 小学校5年生及び小・中学校教職員の調査結果については「単純集計」を行い、中学校2年生の調査結果については学校選択制の利用有無を区分して集計した「クロス集計」を行っています。
- (4) 「検証の5つの視点」（9頁参照）に基づき設定された質問については、質問の後ろに対応する視点の番号を記載しています。
- (5) 平成23年度に実施したアンケート調査と同じ設問については、比較対象グラフを作成しています。
- (6) 本文及び図表において、設問または選択肢の表記が長いものについては、一部表記を簡略化しています。



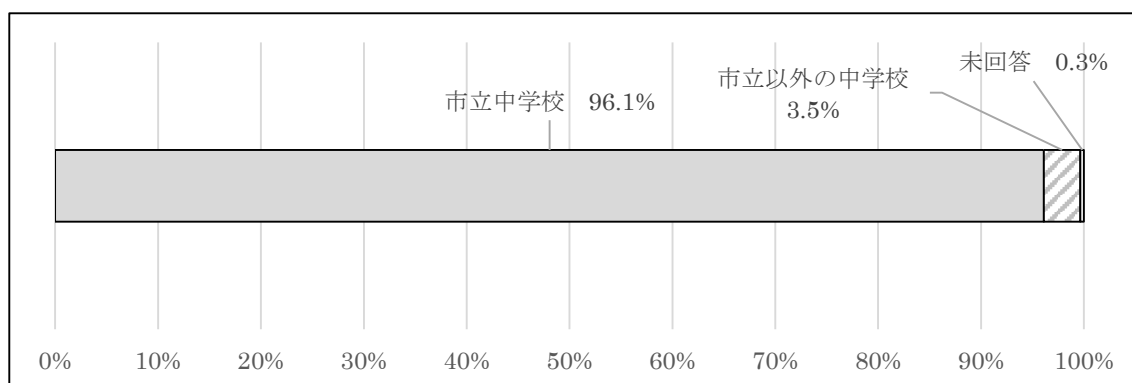
## 2 中学校2年生 生徒・保護者

### (1) 回答した中2生徒の属性

【男女比】 << n = 593 >>

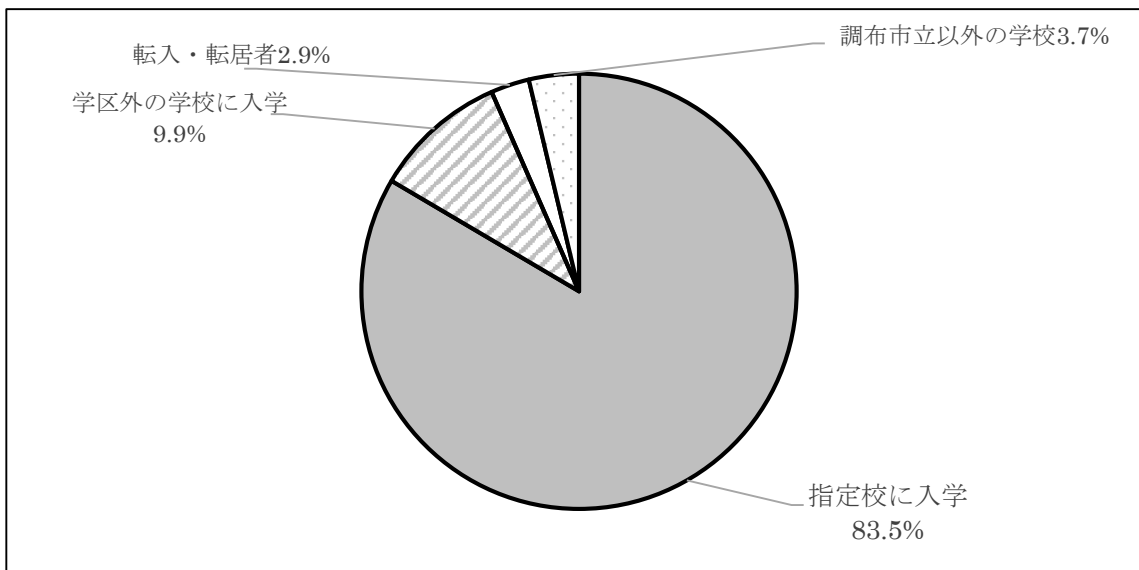


【入学校】 << n = 593 >>



⑦ 未回答を除き男子が42.7%、女子が56.8%であり、また、回答者のうち全体の96.1%が市立中学校に入学しています。

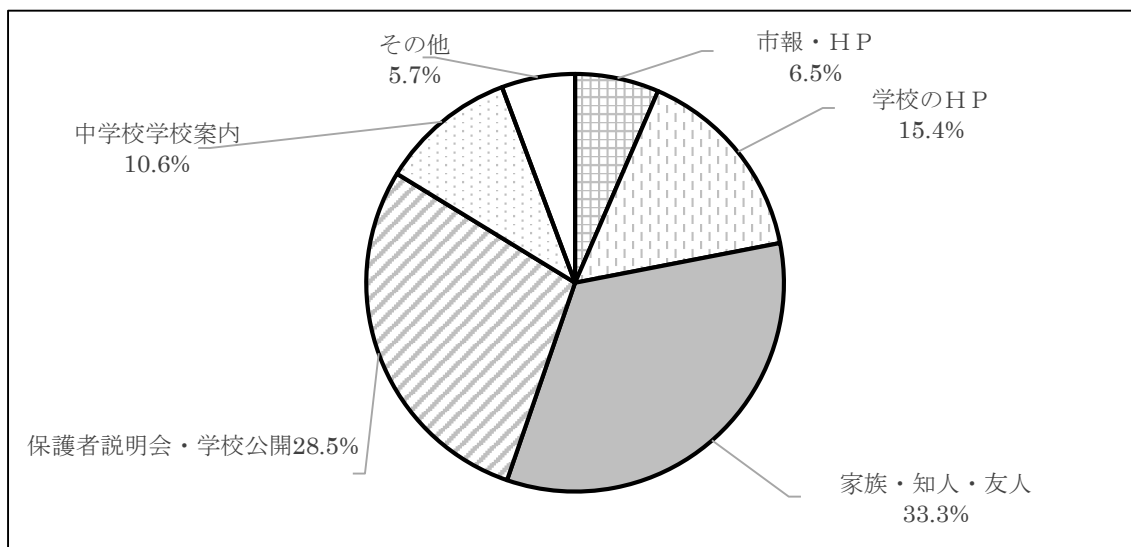
(2) 入学した学校はつぎのどれですか。 << n = 593 >>



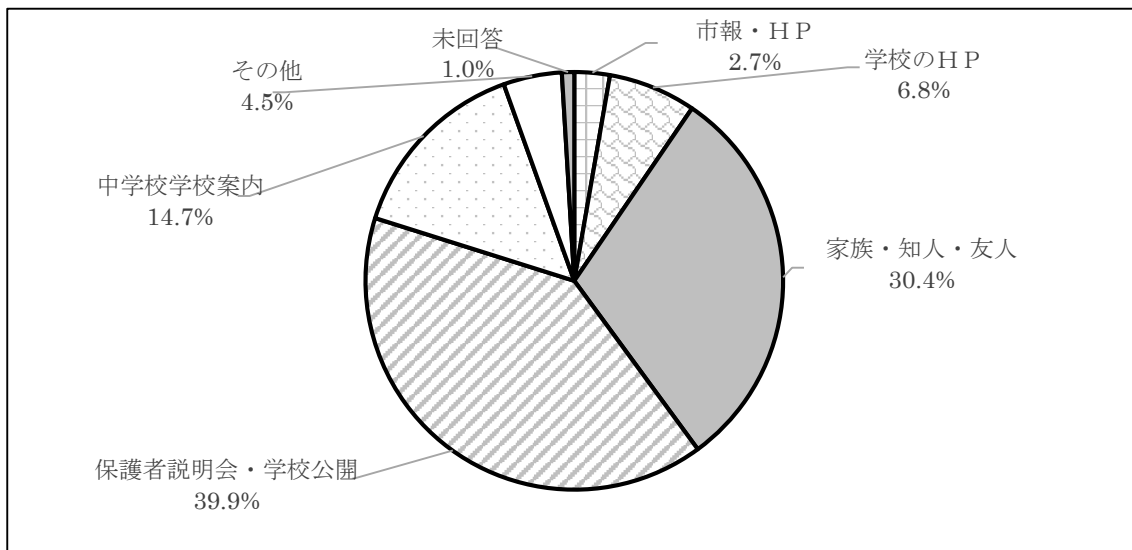
㊦ 選択制を利用して、学区外の学校に入学した生徒は全体の 9.9%です。

(3) 学校を決めるにあたりどのような方法で情報を得ましたか。  
【検証視点②】

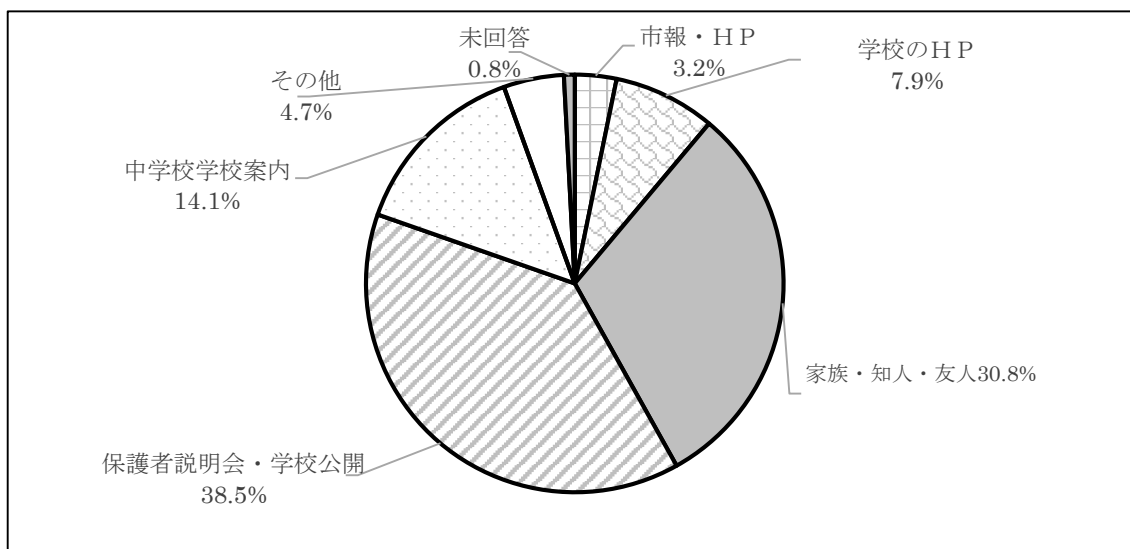
ア 学区外の学校に入学した生徒 << n = 123 >>



イ 指定校に入学した生徒《n = 839》



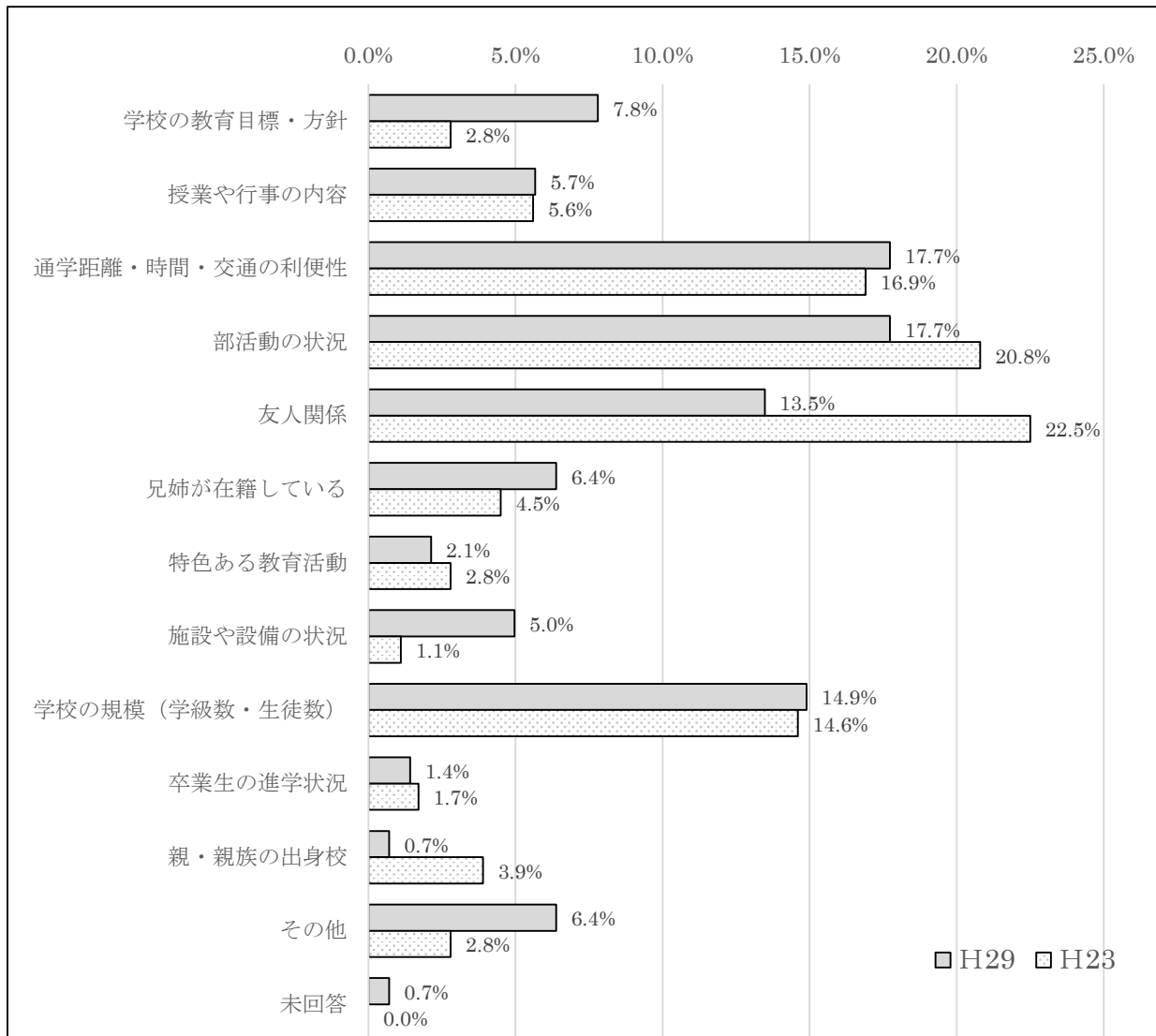
ウ 全体 《n = 962》



㊦ 学区外に入学した生徒，指定校に入学した生徒ともに「家族・知人・友人」及び「保護者説明会・学校公開」が多数を占めています。

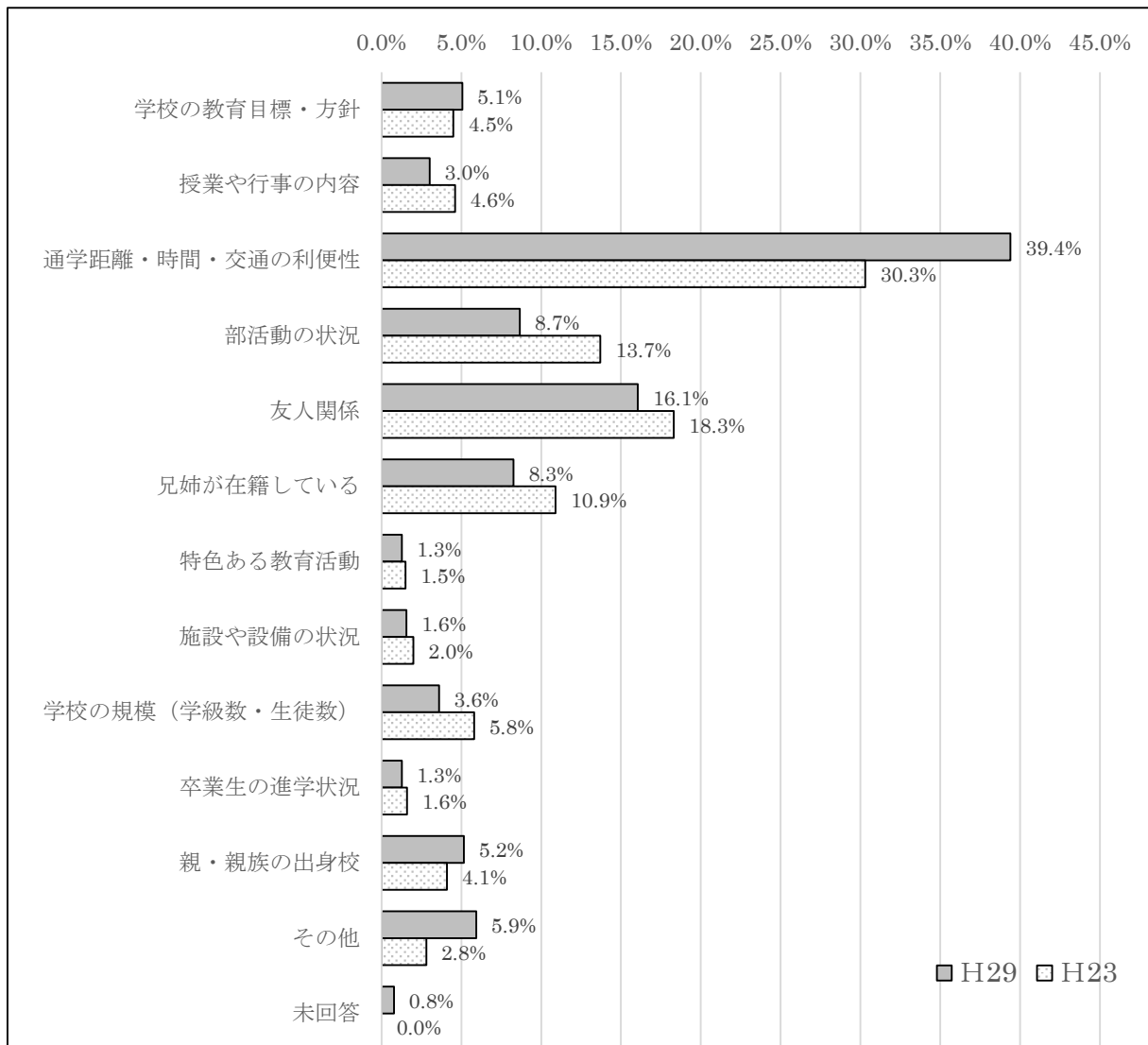
(4) 入学に際しては、どのような理由で中学校を選択しましたか。  
【検証視点②】

ア 学区外の学校に入学した生徒 ≪H29：n＝141≫



㊦ 学区外の中学校に入学した生徒は「通学距離・時間・交通の利便性」と「部活動の状況」が同率の17.7%で最も高く、「学校の規模（学級数・生徒数）」（14.9%）「友人関係」（13.5%）と続いています。「友人関係」の比率は平成23年度のアンケート調査に対して9.0ポイント低下しました。

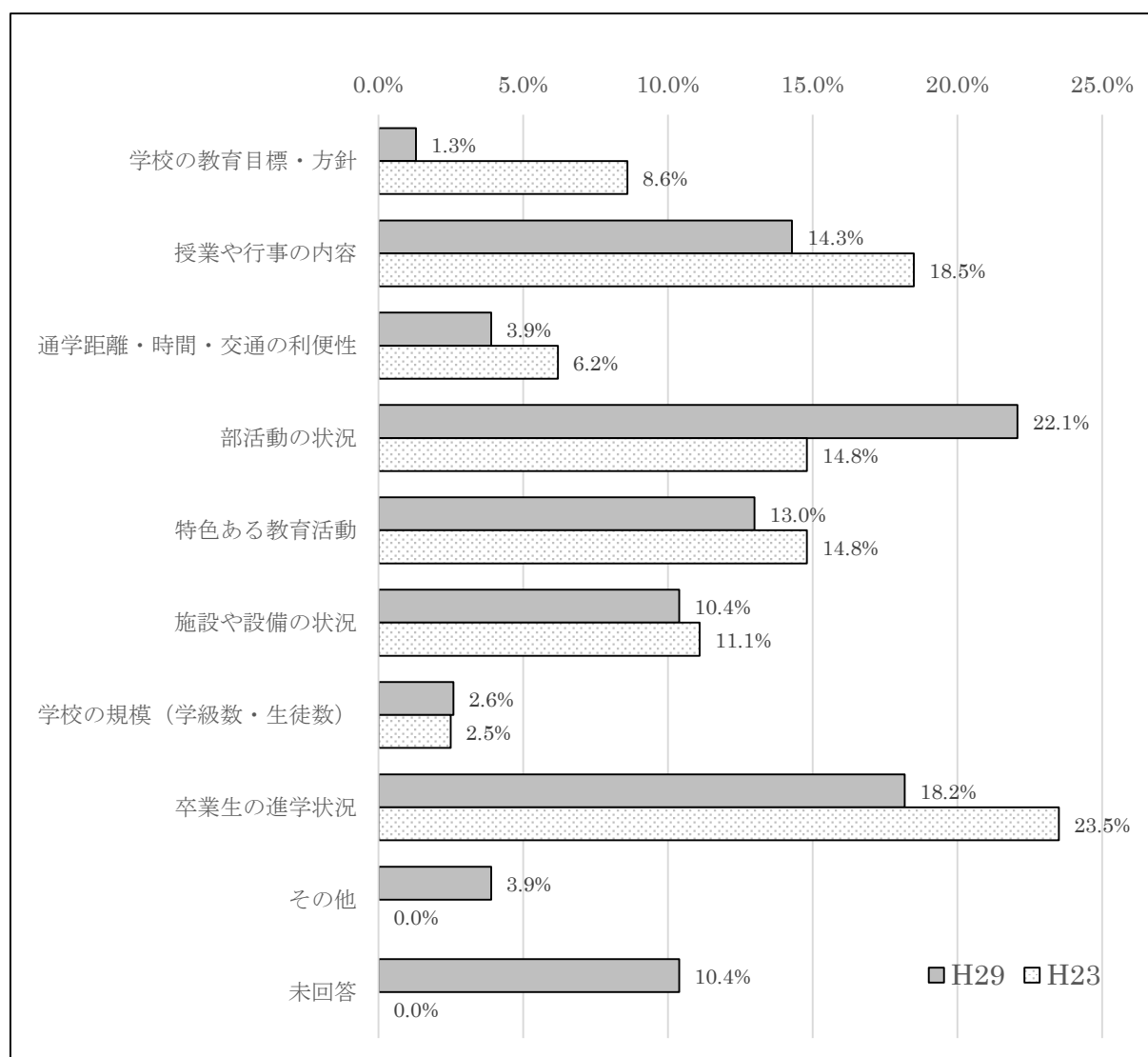
イ 指定校に入学した生徒 ≪H29：n = 1028≫



㊦ 指定校を選択した生徒は「通学距離・時間・交通の利便性」が39.4%で最も高く、次いで「友人関係」（16.1%）となっています。「通学距離・時間・交通の利便性」の比率は平成23年度から9.1ポイント上昇しました。

(5) 入学に際しては、どの情報をもっとあれば良かったですか。  
【検証視点②】

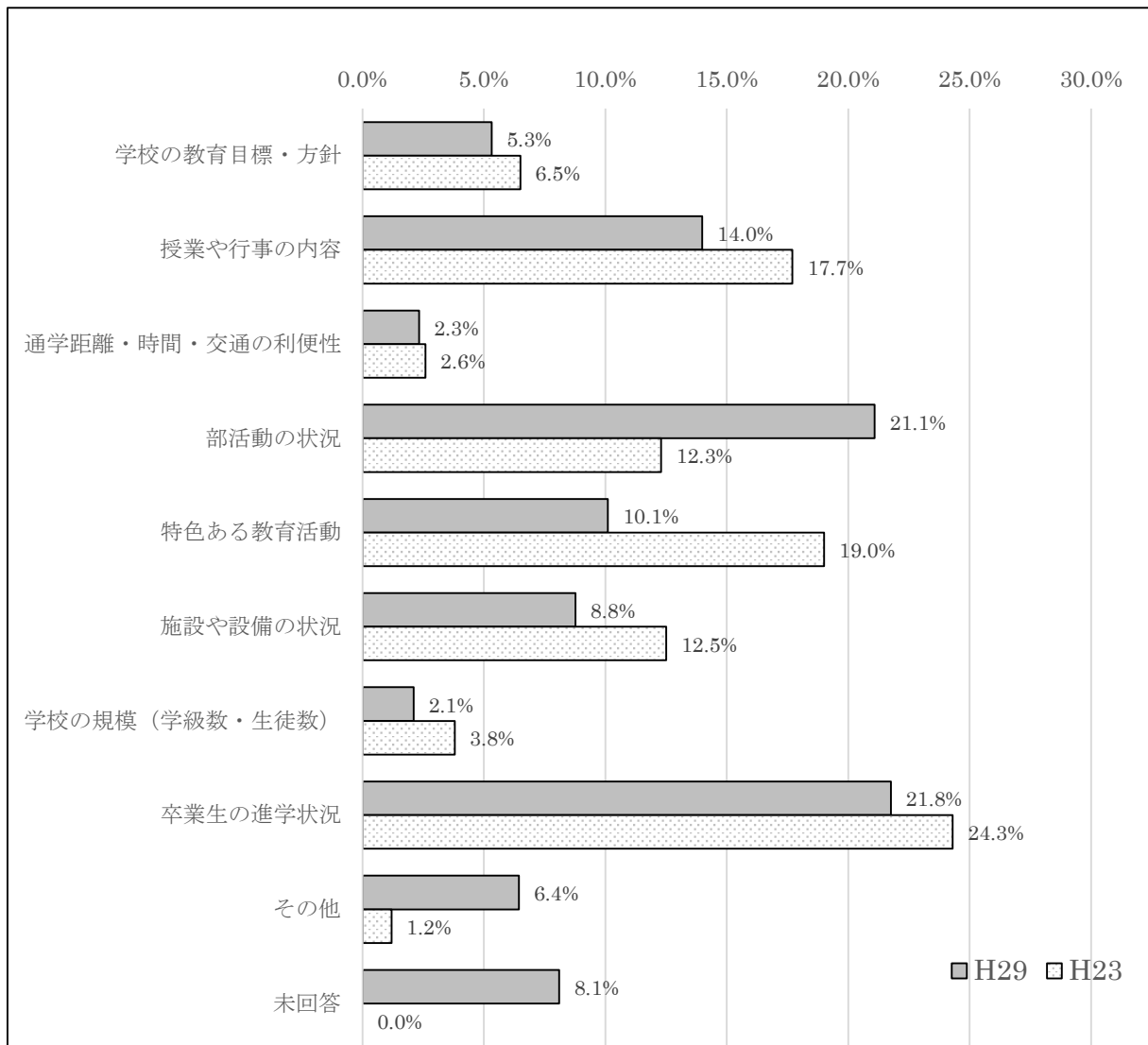
ア 学区外の学校に入学した生徒 <<H29：n=77>>



㉔ 学区外に入学した生徒は「部活動の状況」が22.1%と最も高く、その他では「卒業生の進学状況」(18.2%)・「授業や行事の内容」(14.3%)も高くなっています。「学校の教育目標・方針」，「卒業生の進学状況」は平成23年度からそれぞれ7.3ポイント，5.3ポイント低下しました。

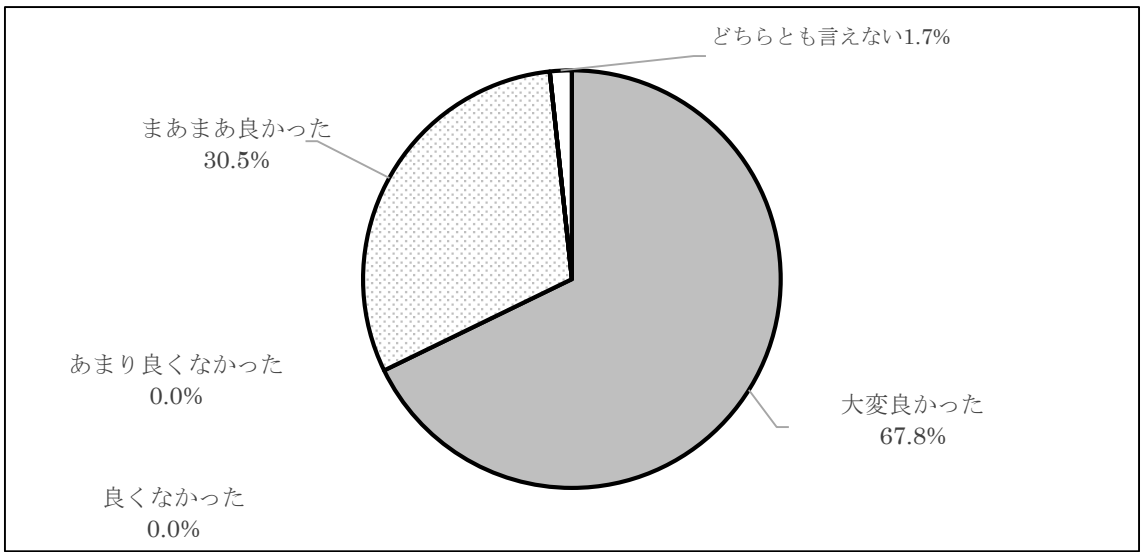


イ 指定校に入学した生徒 << H29 : n = 901 >>



㊦ 指定校に入学した生徒は「部活動の状況」と「卒業生の進学状況」が20%を超える結果となっており、特に「部活動の状況」は平成23年度から8.8ポイント上昇しています。

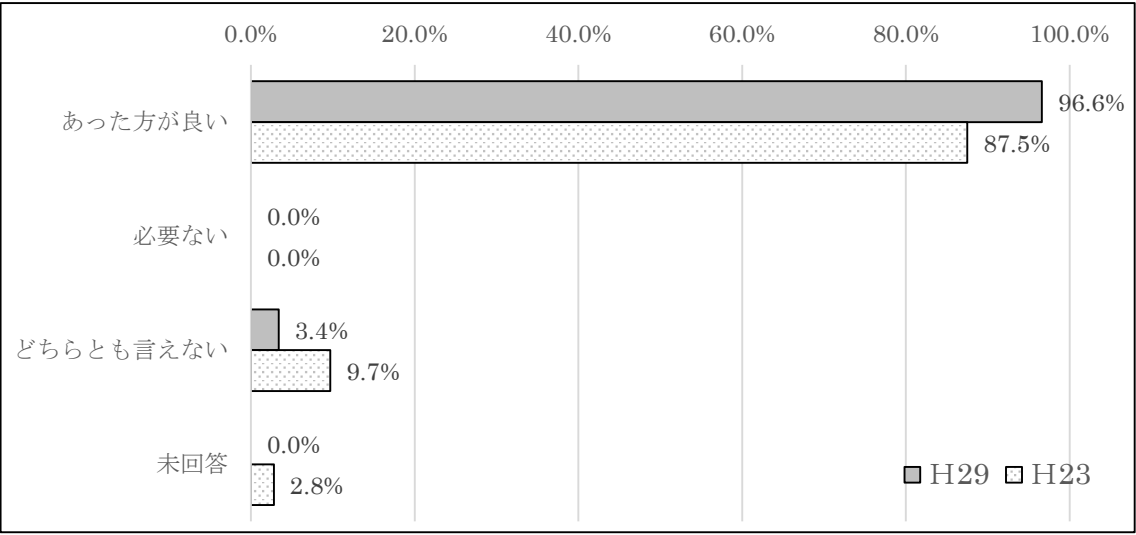
**(6) 学校選択制を利用して良かったと思いますか。（学区外の学校に入学した生徒のみ対象《n=59》）【検証視点①】**



☞ 「大変良かった」・「まあまあ良かった」の回答合計が98%を超え、「あまり良くなかった」「良くなかった」の回答は一切ありませんでした。

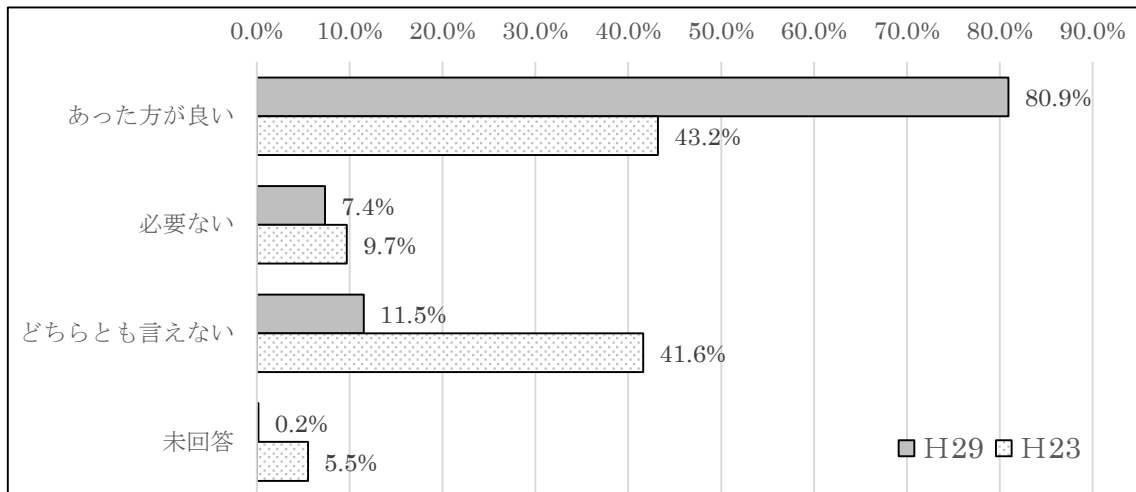
**(7) 中学校が選択できる機会があることについて、どのようにお考えですか。【検証視点①】**

ア 学区外の学校に入学した生徒 《H29：n=57》



☞ 「あった方がよい」の回答が平成23年度から9.1ポイント上昇し、96.6%と高い値になっています。一方、「必要ない」との回答は一切ありませんでした。

イ 指定校に入学した生徒 <<H29：n＝530>>

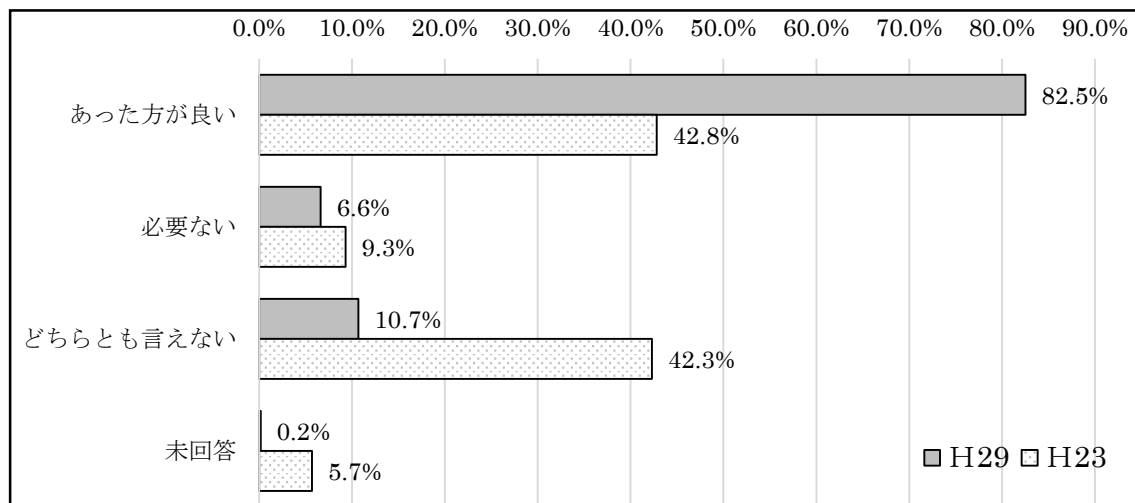


㊦ 「あった方が良い」の回答が80.9%で最も高く、平成23年度から37.7ポイント上昇しています。また、「必要ない」「どちらとも言えない」の比率は平成23年度からそれぞれ2.3ポイント、30.1ポイント低下しました。

学校選択制が必要ないと回答した理由（平成29年度）

選択肢	回答率
ア 地域との関係が希薄になる恐れがあるから	27.9%
イ 生徒の通学上の安全確保に不安があるから	29.5%
ウ 学校の規模など学校格差につながるから	41.0%
エ その他	1.6%
未回答	0.0%

ウ 全体 <<H29：n＝589>>

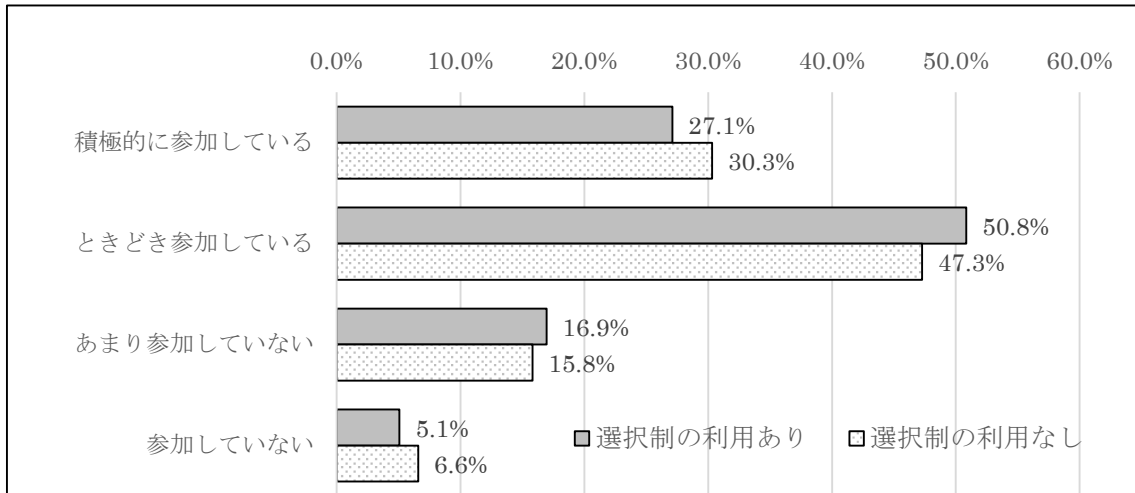


㊦ 中2生徒全体回答においても、「あった方が良い」（82.5%）の回答が平成23年度から39.7ポイント上昇しており、「どちらともいえない」（10.7%）は31.6ポイント低下しています。このことから、学校選択制を実施することに対する支持が高いことが確認できます。

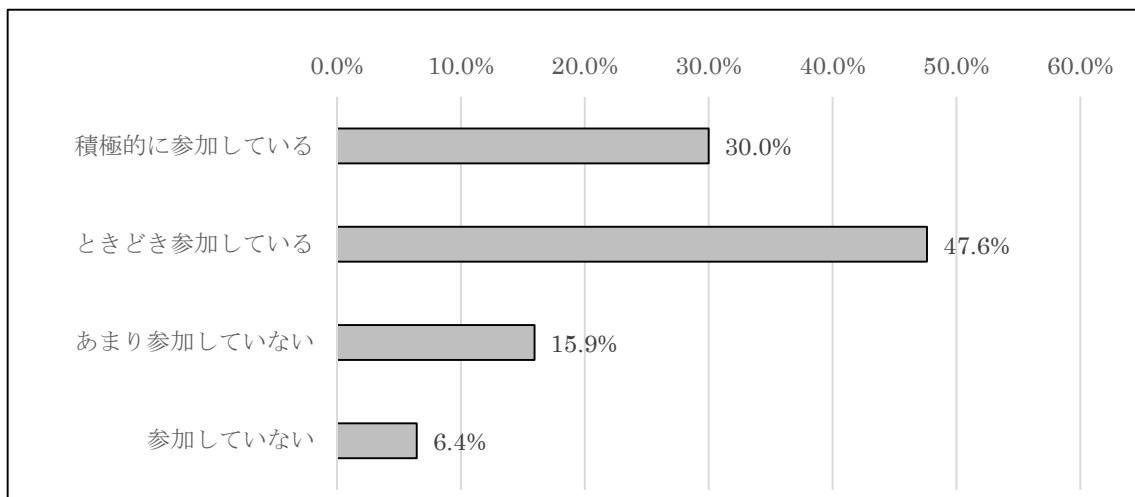
(8) 入学した中学校のPTA・保護者会等の活動に参加していますか。  
【検証視点④】

ア 選択制利用による比較 <<学区外の学校に入学：n=59>>

<<指定校に入学：n=531>>



イ 全体 <<n=590>>

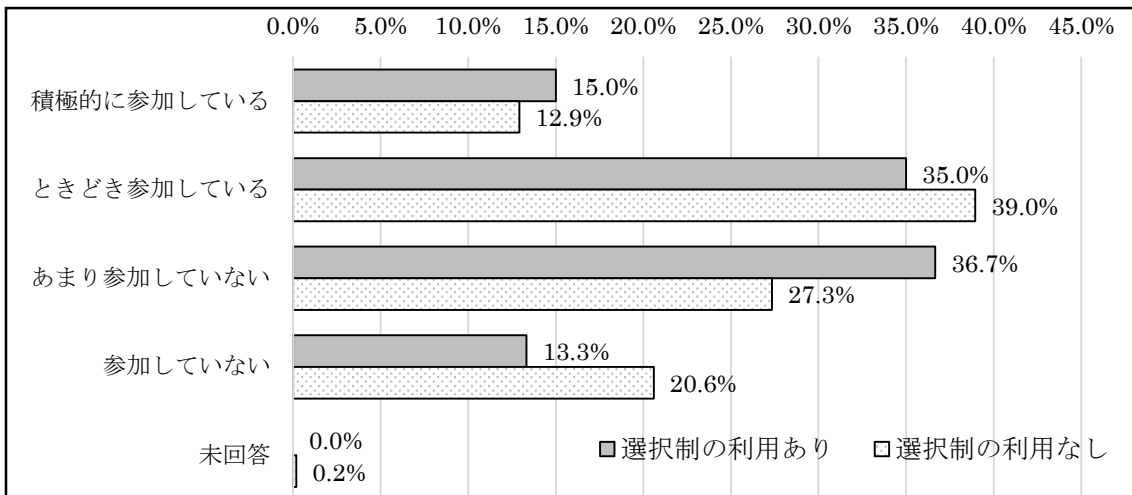


㊦ 学校選択制の利用に関わらず、「積極的に参加している」「ときどき参加している」を合わせると、77%程度でほぼ同割合となっており、入学した学校の保護者会活動等への参加状況に大きな差は見られませんでした。

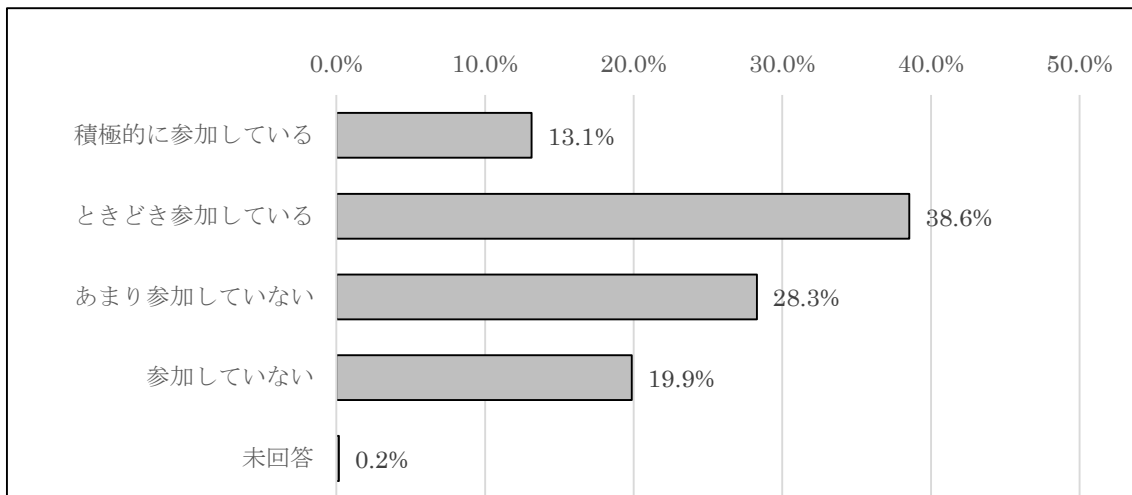
(9) 居住する地域の活動・行事に参加していますか。  
【検証視点④】

ア 選択制利用による比較 <<学区外の学校に入学：n=59 >>

<<指定校に入学：n=531 >>



イ 全体 <<n=594 >>

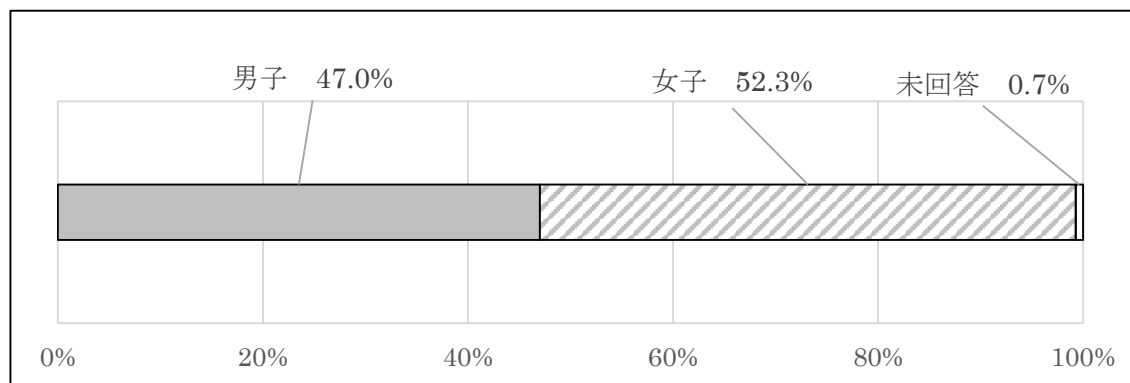


㊦ 学校選択制の利用に関わらず「積極的に参加している」「ときどき参加している」を合わせると、5割を超える結果でほぼ同割合となっており、居住する地域の活動・行事への参加状況に大きな差は見られませんでした。

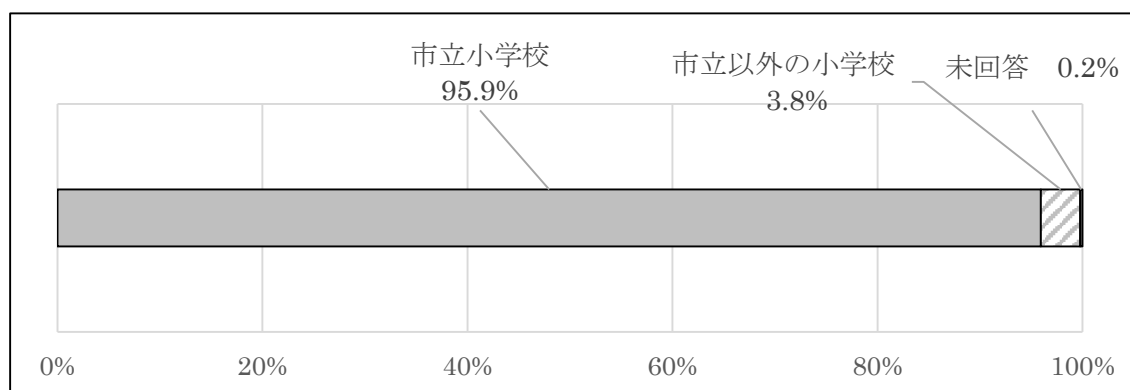
### 3 小学校5年生 児童・保護者

#### (1) 回答した小5児童の属性

【男女比】 << n = 419 >>

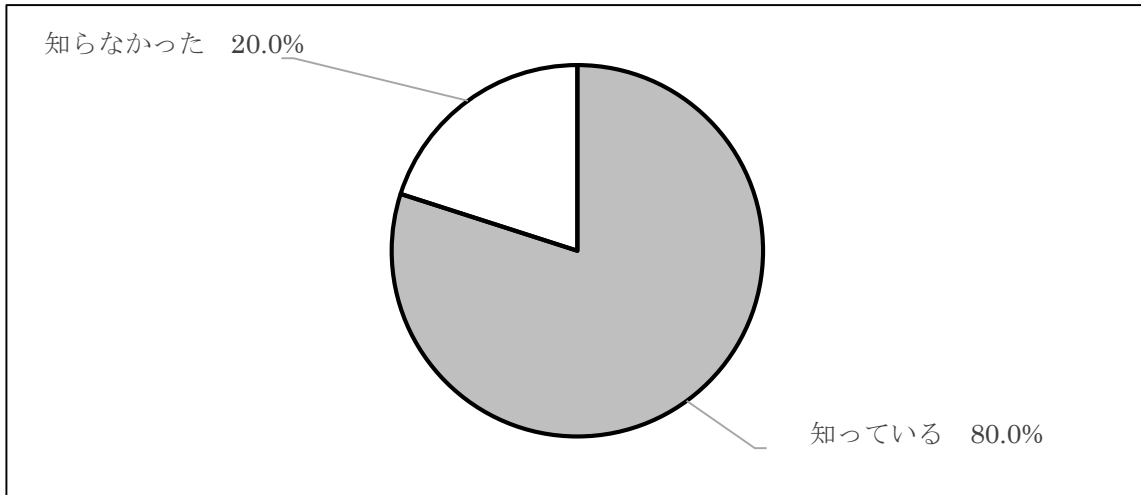


【入学校】 << n = 419 >>



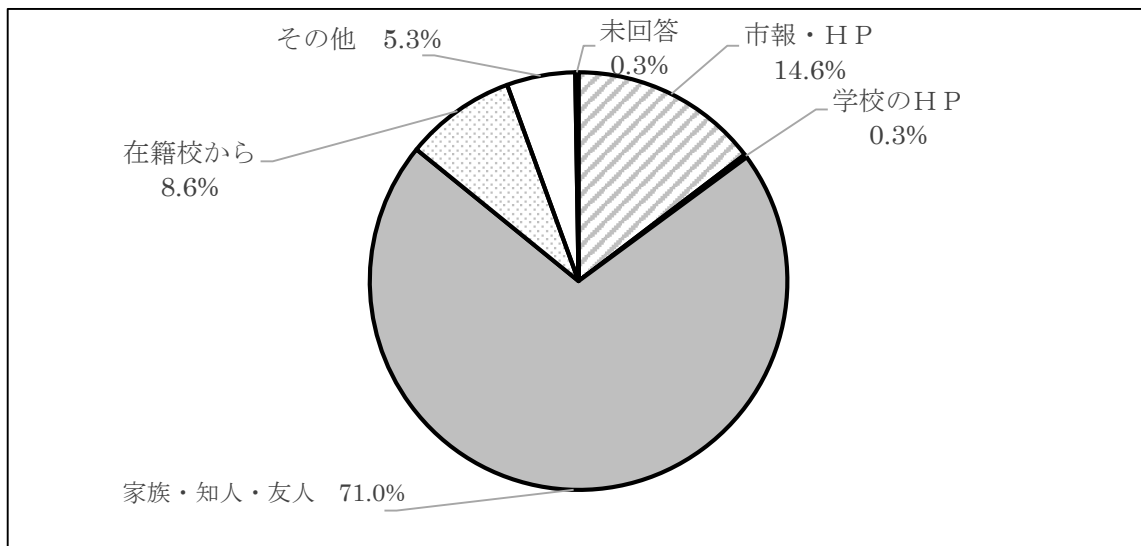
☞ 未回答を除き男子が 47.0%，女子が 52.3%であり，また，回答者のうち全体の 95.9%が市立小学校に在学しています。

(2) 学校選択制が実施されているということをご存知ですか。  
 ≪ n = 419 ≫ 【検証視点②】



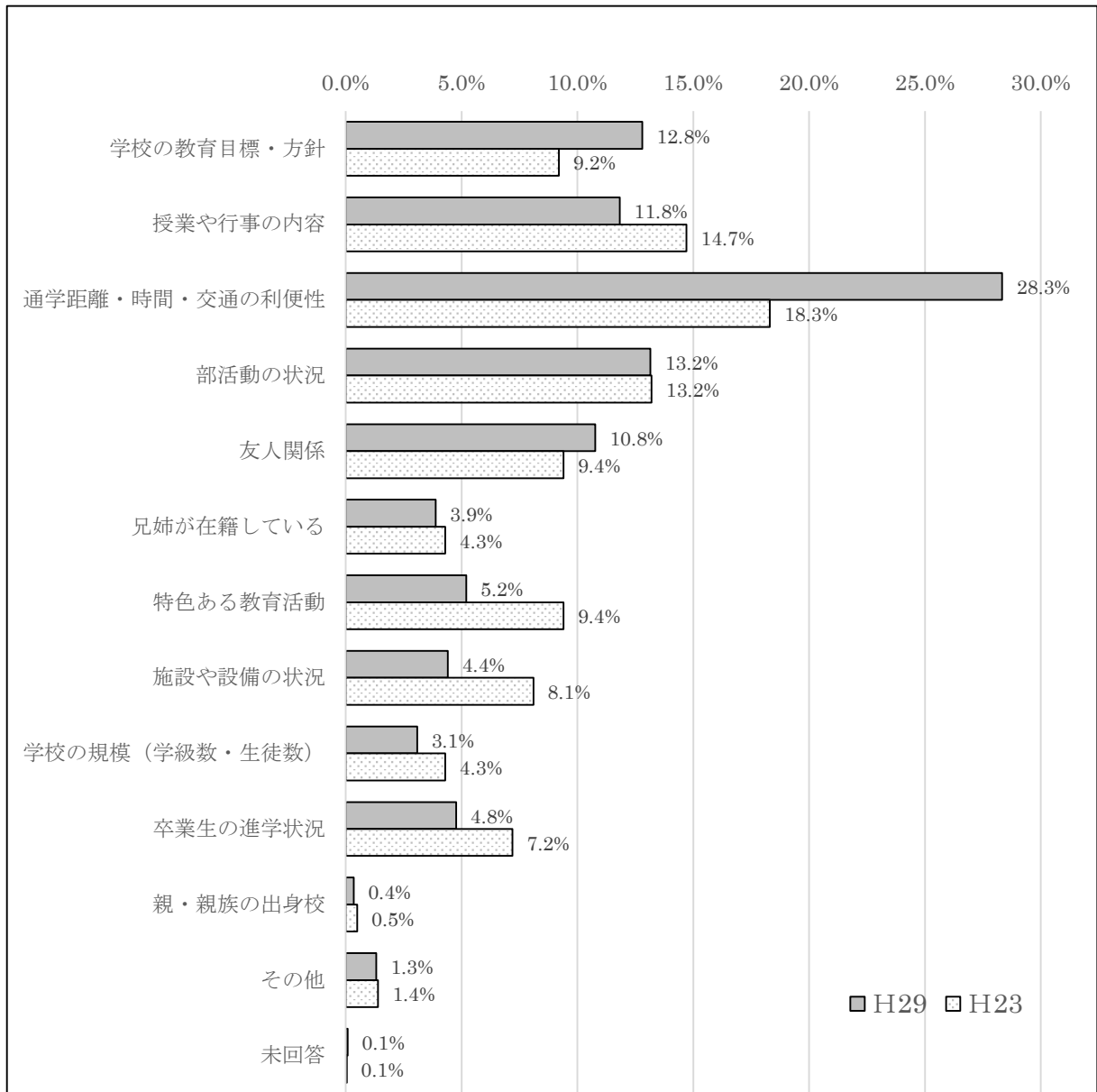
㊦ 学校選択制の案内は毎年9月上旬頃に小6児童に配布していますが、小5児童であっても、回答者のうち80%が既に「知っている」との回答でした。

(3) 学校選択制をどのような方法で知りましたか。  
 ((2)で知っていると答えた方のみ ≪ n = 396 ≫)  
 【検証視点②】



㊦ 学校選択制に関する情報の取得については、「家族・知人・友人」(71.0%)が最も高く、次いで「市報・HP」(14.6%)、「在籍校から」(8.6%)と続いています。

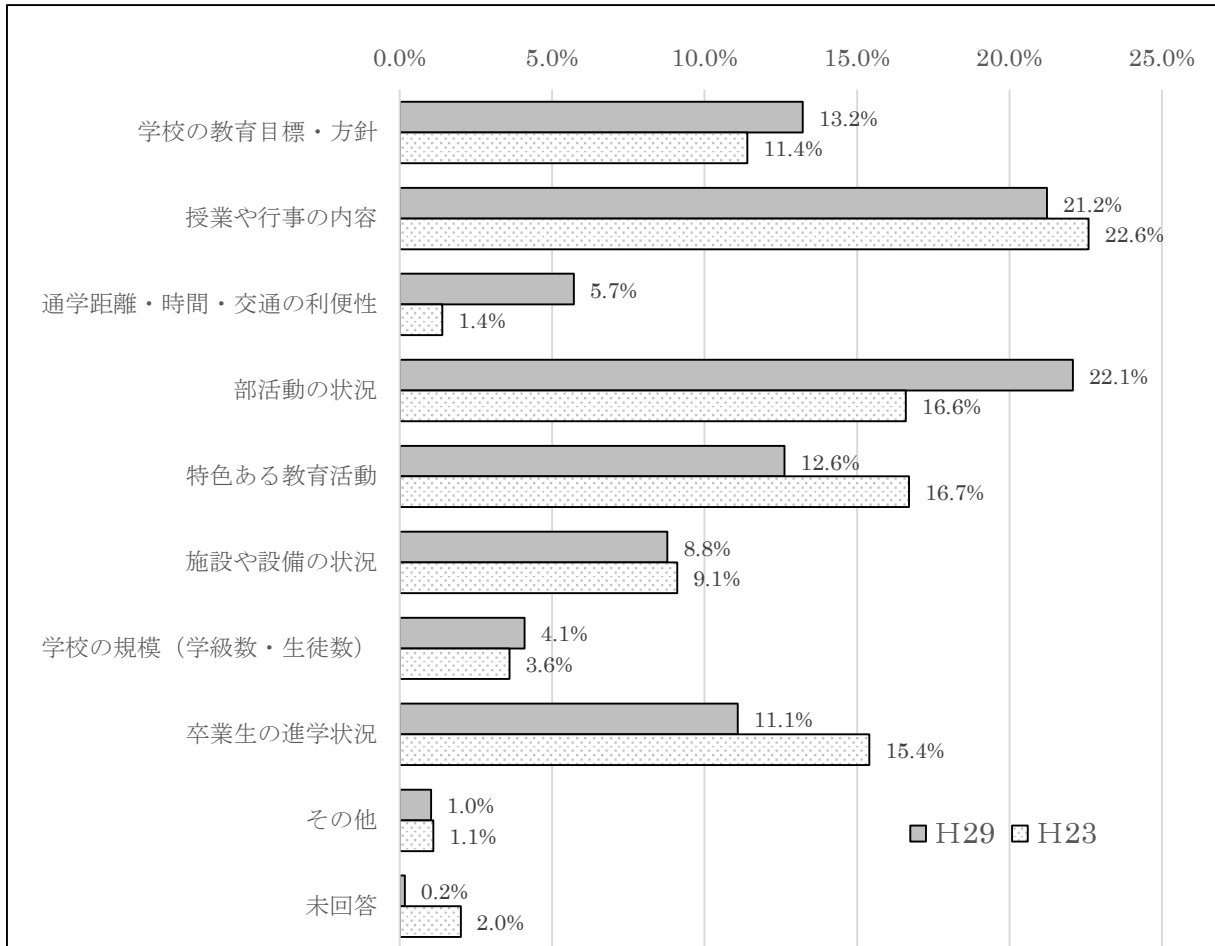
(4) 入学に際しては、どのような理由で中学校を選びたいと考えますか。《H29：n=1133》 【検証視点②】



㊦ 中学校を選びたい理由は「通学距離・時間・交通の利便性」が28.3%で最も高く、次いで「部活動の状況」が13.2%となっています。「通学距離・時間・交通の利便性」は、平成23年度から10ポイント上昇しています。

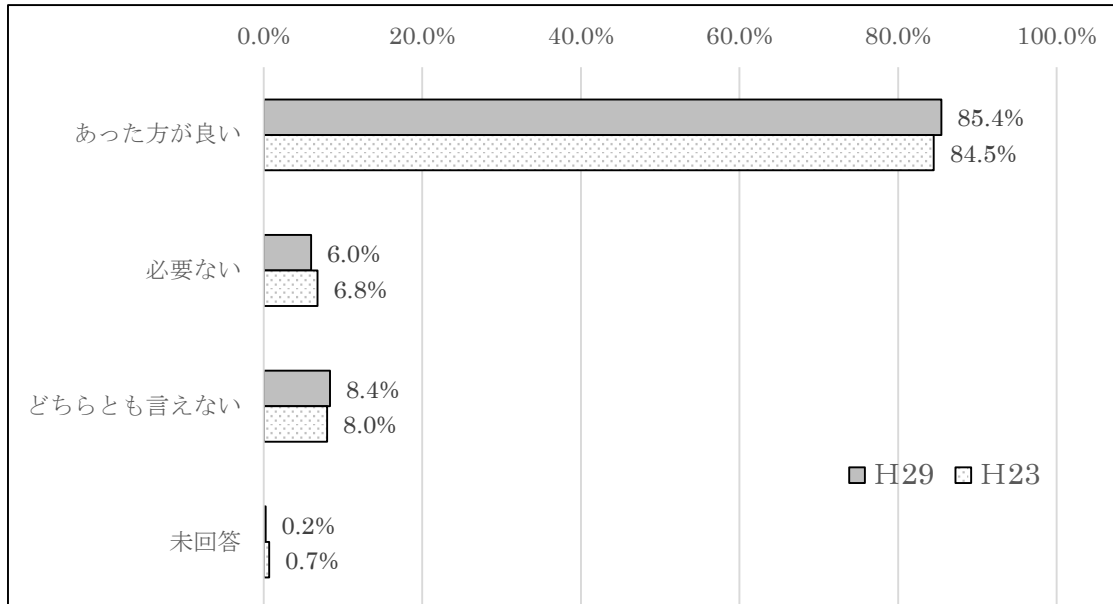


(5) 入学に際しては、どの情報が多くあることを希望しますか。  
 ≪H29：n=1173≫ 【検証視点②】



入学に際して希望する情報としては、小5児童では「部活動の状況」が全体の2割を超えており、その他では「卒業生の進学状況」・「授業や行事の内容」・「学校の教育目標・方針」も高くなっています。

(6) 中学校が選択できる機会があることについて、どのようにお考えですか。《H29：n=419》 【検証視点①】



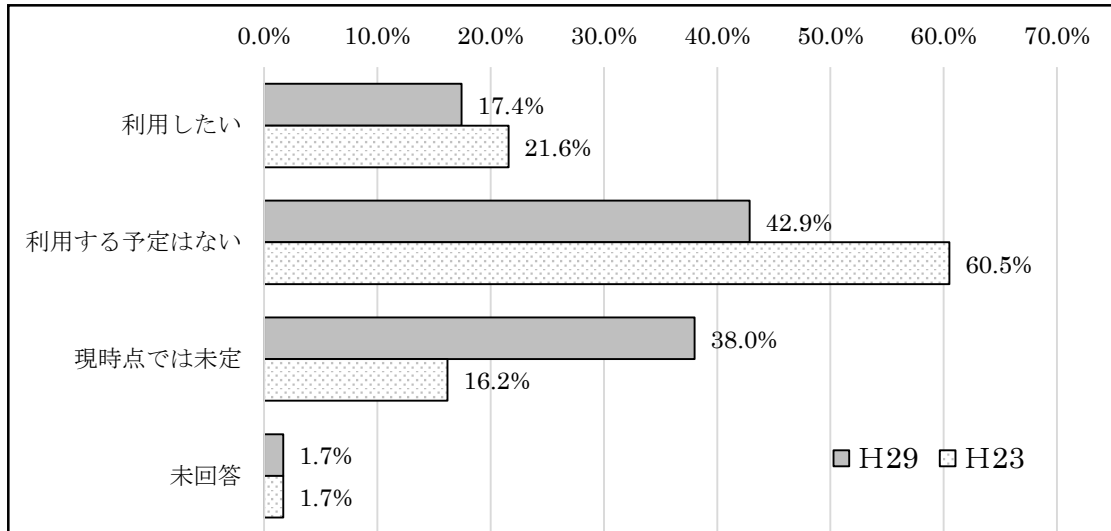
学校選択制が必要ないと回答した理由（平成29年度）

選択肢	回答率
ア 地域との関係が希薄になる恐れがあるから	21.4%
イ 生徒の通学上の安全確保に不安があるから	28.6%
ウ 学校規模など学校格差につながるから	38.1%
エ その他	7.1%
未回答	4.8%

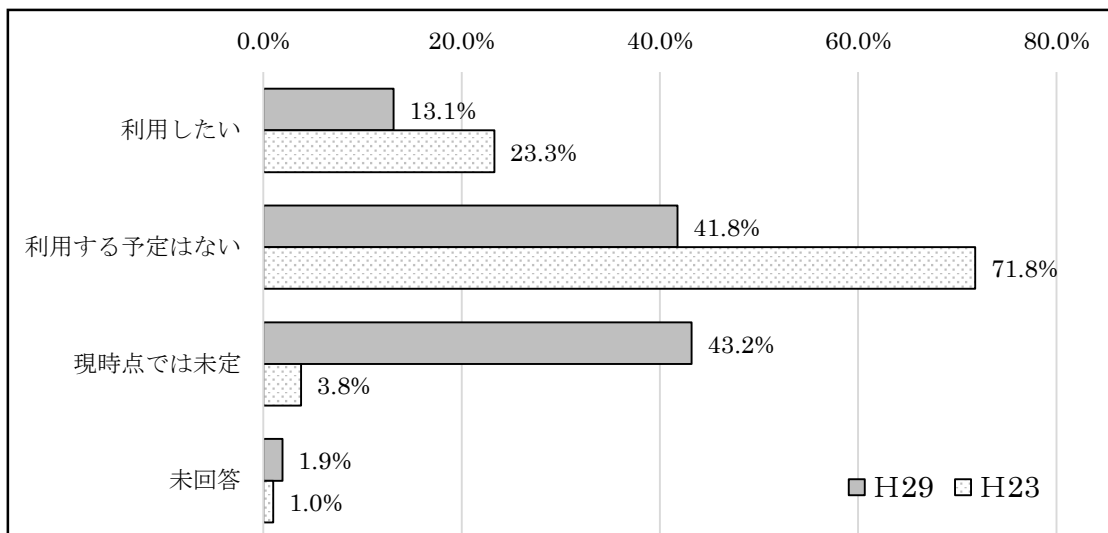
㊦ 平成23年度に引き続き、大多数（85.4%）が「あった方がよい」との回答になっていることから、学校選択制を実施することに対する支持が継続して高いことが確認できます。

(7) 中学校入学時に、学校選択制を利用したいと考えていますか。  
【検証視点①】

ア 小5児童 <<H29：n＝413>>



イ 保護者 <<H29：n＝419>>

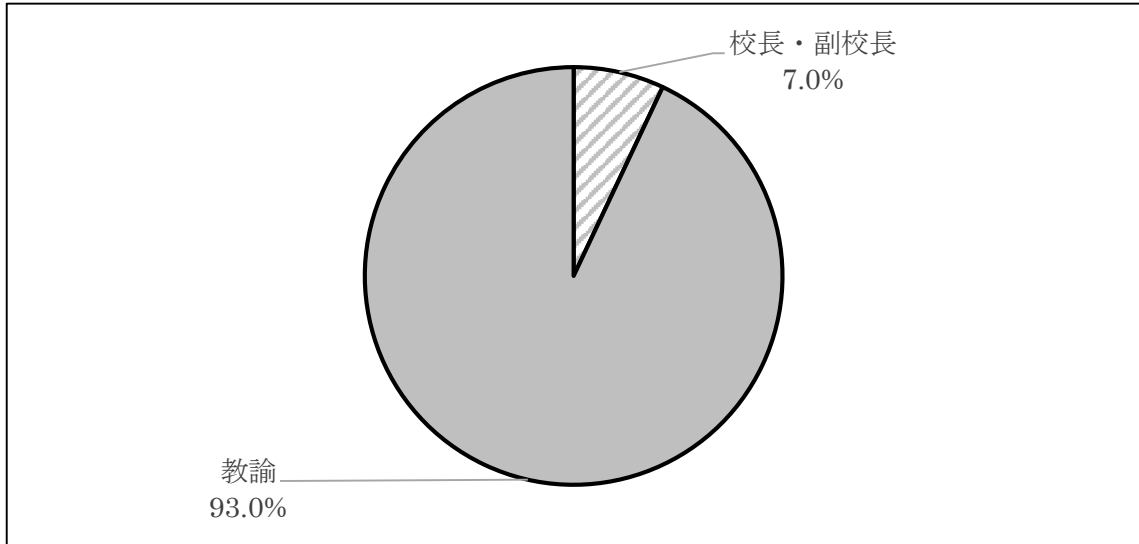


㊦ 平成23年度に実施した調査結果と比較すると小5児童・保護者ともに「利用する予定はない」とする回答が大幅に減少し、「現時点では未定」としている回答が増加しています。

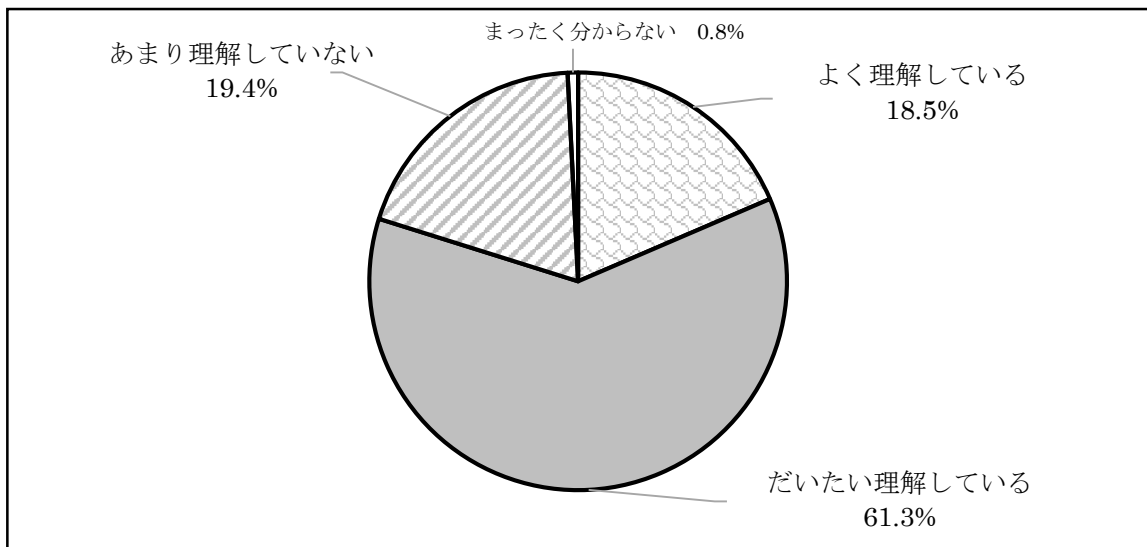
小5児童・保護者は一般的に進路について検討している段階ですが、「現時点では未定」の回答が増加していることは、学校選択制を、私立等を含めた選択肢の一つとして捉える傾向が高まっているといえます。

## 4 中学校教職員

### (1) アンケート回答者の役職 << n = 114 >>

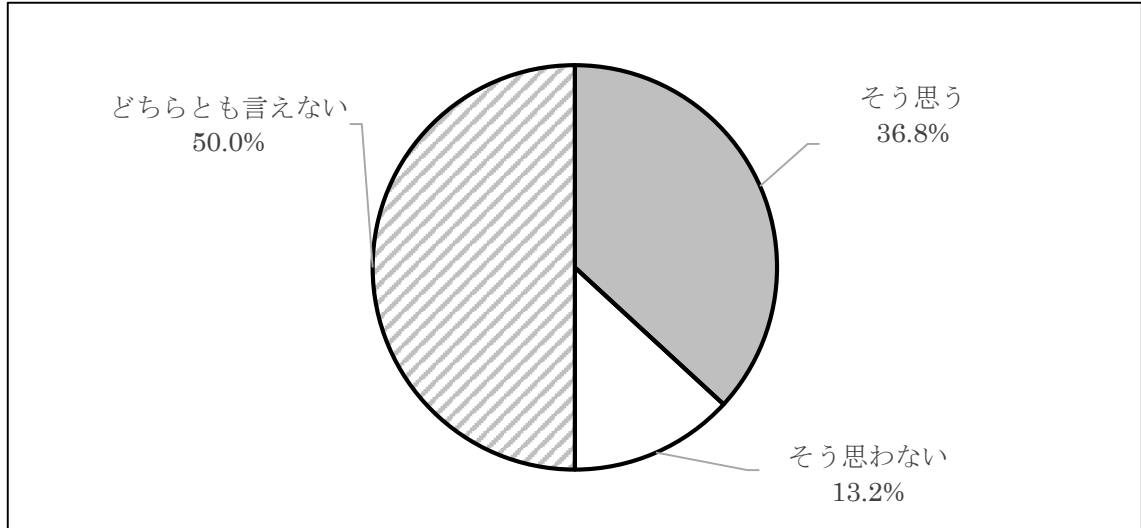


### (2) 学校選択制を理解していますか。 << n = 114 >>



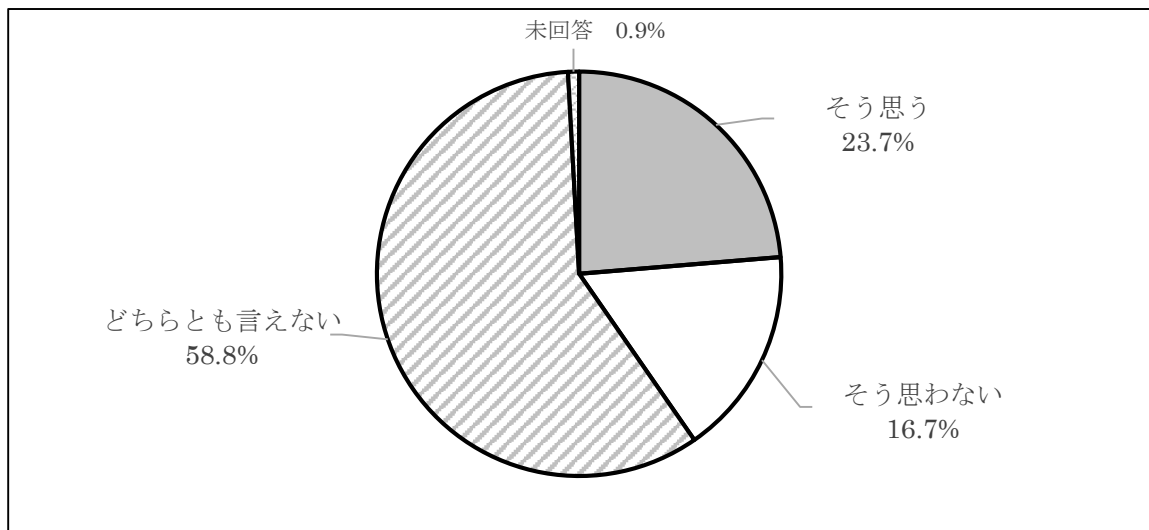
☞ 「よく理解している」・「だいたい理解している」の回答の合計が 79.8%を占めています。

(3) 学校選択制の実施により，生徒・保護者の学校や教育に関する関心が高まったか。《n=114》【検証視点①】



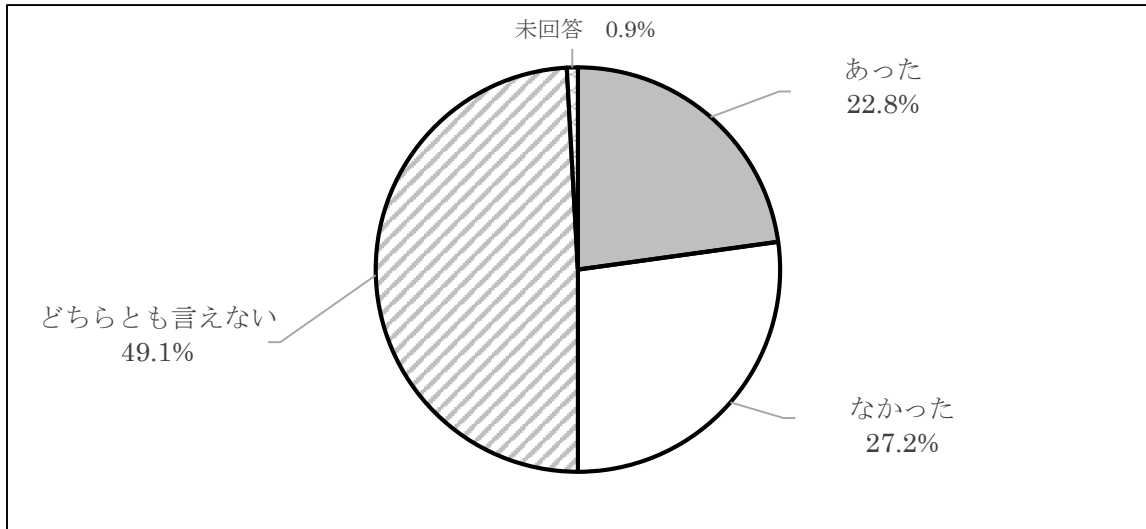
☞ 学校選択制を実施したことにより関心が高まったかについては，半数は「どちらとも言えない」（50.0%）との回答で，次いで，「そう思う」（児童生徒・保護者の学校や教育に対する関心が高まったと思う）（36.8%），「そう思わない」（13.2%）と続いています。

(4) 中学校が選ばれることにより，中学校が活性化したいと思いますか。《n=114》【検証視点③】



☞ 学校選択制を実施したことにより中学校が活性化したかについては，多数が「どちらとも言えない」（58.8%）との回答で，次いで，「そう思う」（23.7%），「そう思わない」（16.7%）と続いています。

(5) 学校選択制を実施して、学校として良かったと感じることはありますか。 ≪ n = 114 ≫ 【検証視点③】



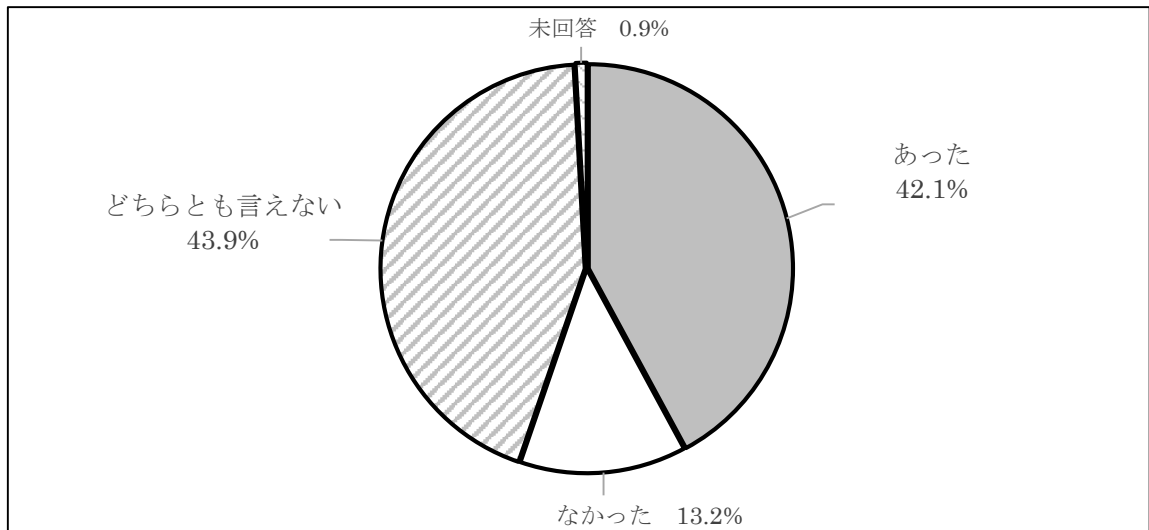
【主な意見】（自由記述から抜粋）

- ・生徒数が増加した。
- ・部活動が活性化した。
- ・生徒の個性や可能性を伸ばすよう学校として、取り組んでいける。
- ・自分の学校の良さを再認識した。
- ・教職員の意識向上

㊦ 学校選択制を実施して良かったと感じることがあったかについては半数が「どちらとも言えない」(49.1%)の回答で、「あった」が22.8%、「なかった」が27.2%となりました。

良かったと感じることの具体的な記述としては「生徒数の増加」・「部活動の活性化」が多数を占めていますが、「生徒の個性・可能性を伸ばすような学校としての取組につながっている」、「教職員の意識向上」、「自校の良さを再認識した」等の意見も挙げられています。

(6) 学校選択制を実施して、学校として困ったと感じることはありますか。 ≪ n = 114 ≫ 【検証視点⑤】



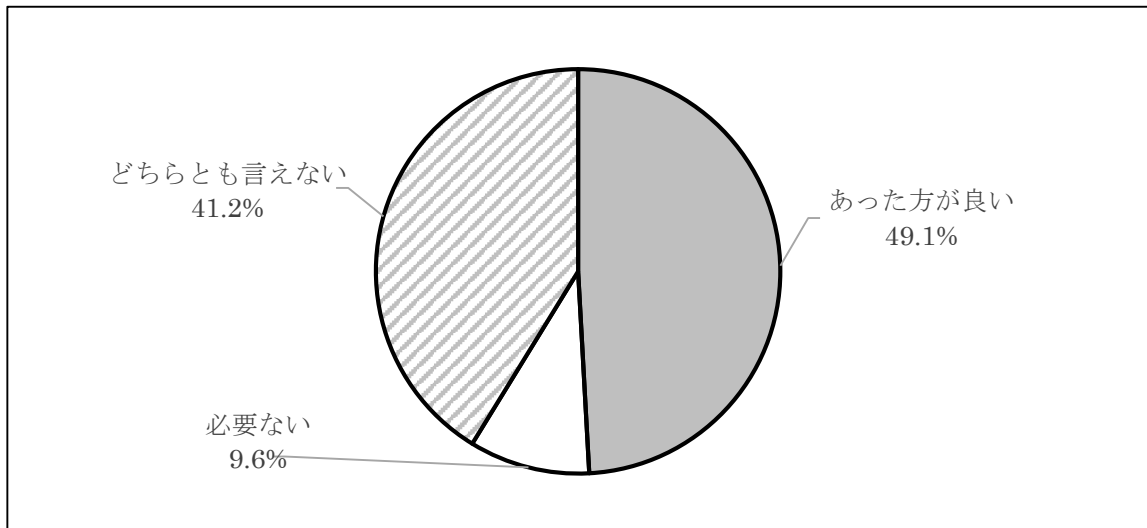
【主な意見】（自由記述から抜粋）

- ・学校から自宅まで遠い生徒の安全確保と保護者の理解が必要であった。
- ・新入学生徒数が読めないため、学級数が確定しない。

㊦ 学校選択制を実施して困ったことについては、半数近くが「どちらとも言えない」(43.9%)の回答で、「あつた」が42.1%、「なかつた」が13.2%となりました。

「あつた」の具体的な記述として「通学経路の把握が困難であるため安全確認が難しい」「入学生徒数の見込みが困難になる」ことなどが挙げられ、その他、教職員の自由意見欄においても「学校規模の格差」を懸念する意見がありました。

(7) 学校を選択する機会があることについて、どのようにお考えですか。 < n = 114 > 【検証視点①】



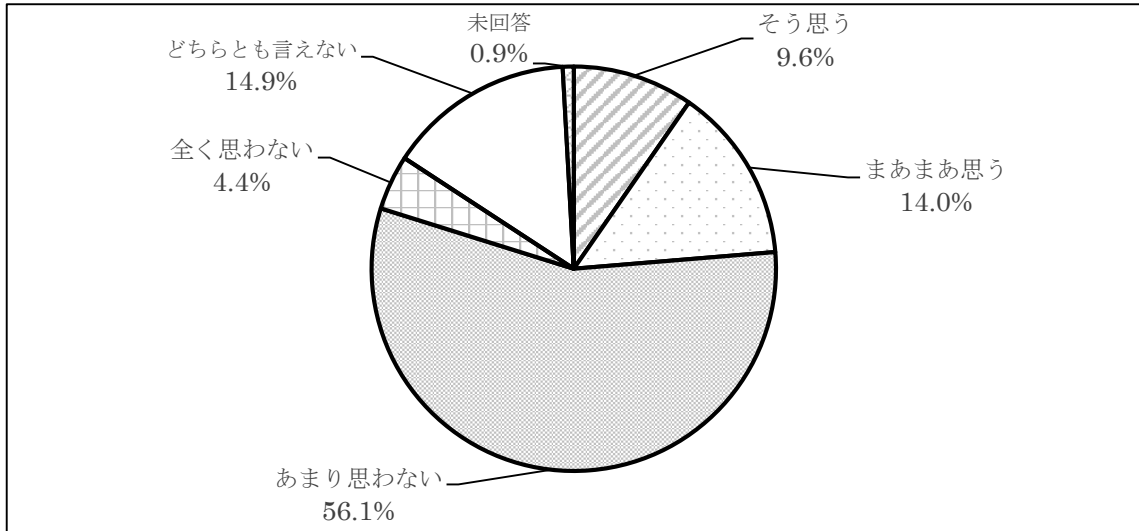
【主な意見】（自由記述から抜粋）

- ・人間関係をリセットできる。
- ・やりたい部活動を選択することができる。
- ・生徒自身が選択することによる自立心の成長を期待できる。

④ 学校選択制について「あった方がよい」の回答が 49.1%で最も多く、また、「どちらとも言えない」の回答が 41.2%となっています。一方で、「必要ない」の回答は 10%以下に留まっており、一定の支持があることがわかります。



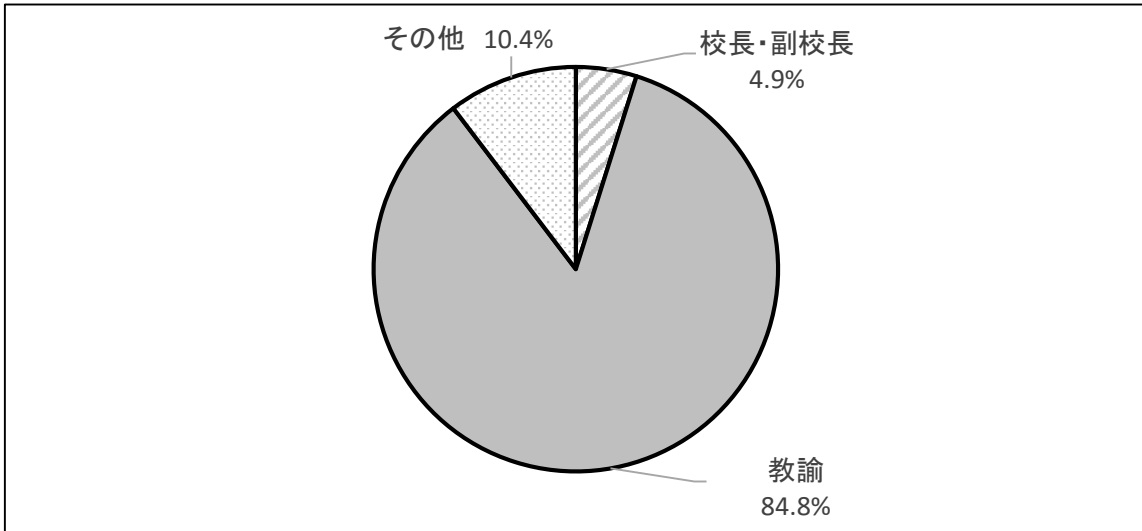
(8) 学校選択制を実施したことによって、学校と地域とのつながり・連携が希薄化していると思いますか。  
《 n = 114 》 【検証視点④】



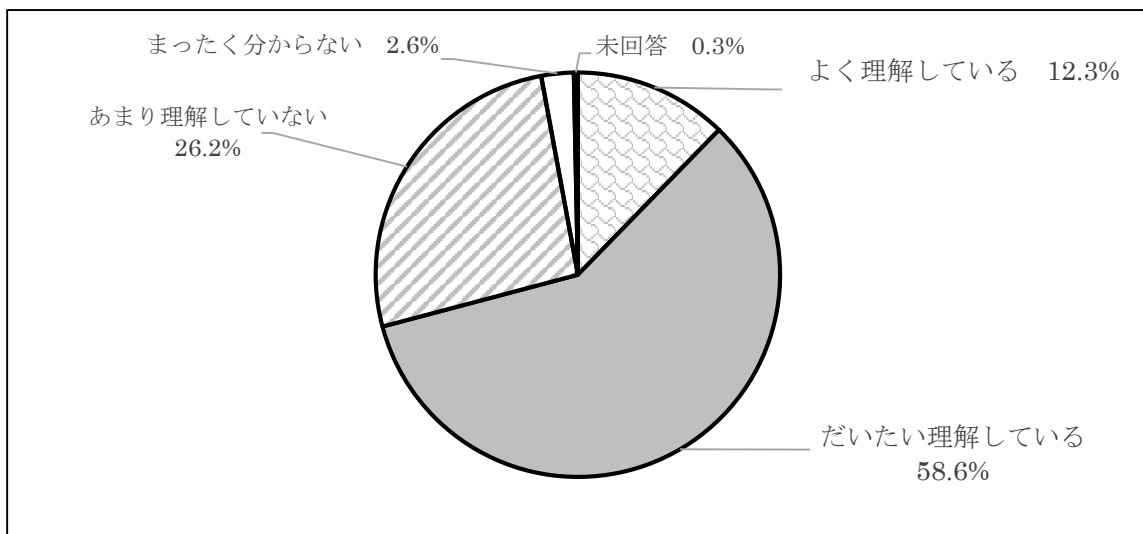
㊦ 学校と地域とのつながり・連携が希薄化したかについては「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせると6割を超えており、「まあまあ思う」もしくは「そう思う」の回答が合わせて24%程度となりました。

## 5 小学校教職員

### (1) アンケート回答者の役職 << n = 309 >>

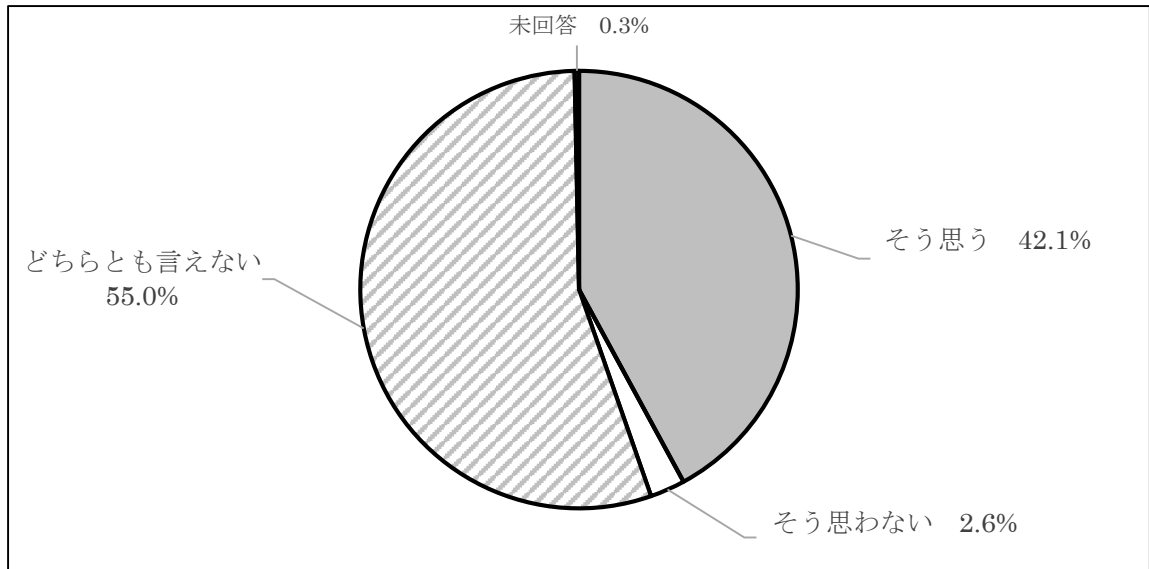


### (2) 学校選択制を理解していますか。 << n = 309 >>



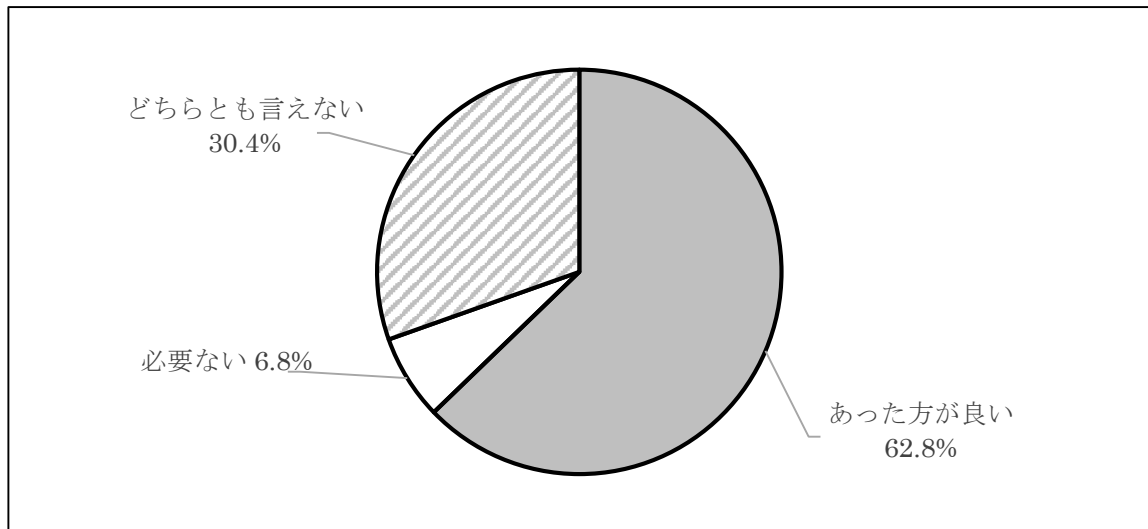
㊦ 「よく理解している」（12.3%）、「だいたい理解している」（58.6%）を合計すると全体の7割以上を占めています。

(3) 学校選択制の実施により，生徒・保護者の学校や教育に関する関心が高まったか。 <n=309> 【検証視点①】



㊦ 学校選択制を実施したことにより生徒・保護者の学校や教育に関する関心が高まったかについては，大多数の方が「どちらとも言えない」（55.0%）との回答で，次いで，「そう思う」（42.1%）が「そう思わない」（2.6%）を大きく上回っています。

(4) 中学校を選択できる機会があることについて、どのようにお考えですか。《n = 309》 【検証視点①】



【主な意見】（自由記述から抜粋）

- ・人間関係をリセットできる。
- ・生徒自身が選択することによる自立心の成長を期待できる。
- ・教育に対する関心が高まる。
- ・やりたい部活動を選択することができる。

㊦ 中学校を選択できる機会の必要性については、62.8%が「あった方がよい」、30.4%が「どちらとも言えない」となっています。一方、「必要ない」との回答は一割に満たない結果となっており、学校選択制に一定の支持があることがわかります。